

hMSC 脂肪細胞分化キット

目次 # RP02014-A 1 Kit (2 L)

製品概要

hMSC 脂肪細胞分化キットは、脂肪細胞への高効率な分化誘導能力を持ち、ヒト間葉系幹細胞の脂肪細胞への分化誘導に使用できます。

製品情報

表 1 : hMSC 脂肪細胞分化キット製品詳細

製品情報	品番	規格	保存条件
hMSC 脂肪細胞分化キットの内容物 :	RP02014-A	1 Kit	2-8 °C*
Adipogenic differentiation Basal Medium	RP02014-A-01	80 mL	2-8 °C
Adipogenic differentiation Supplement	RP02014-A-02	20 mL	-80 °C または -20 °C

*基礎液と添加物をよく混和して完全培地を調製します。調製後は2 °C～8 °Cで保存し、2週間以内に使用可能です。

試薬と材料

表 2 : 推奨試薬&材料

試薬&材料	ブランド (e.g.)	品番 (e.g.)
NcMission™ hMSC Medium V3.0	Shownin	RP02010
オイルレッド O (Oil Red O)	Sigma	O0625
1 × DPBS w/o Ca2+/Mg2+	Thermo Sci.	14190250
6 ウエルプレート	Thermo Sci.	140685
1 mL/5 mL/10 mL/25 mL ピペット	Thermo Sci.	N/A
15 mL/50 mL 遠心管	Thermo Sci.	N/A
10 μL/200 μL/1000 μL ピペットチップ	Rainin .	N/A

試薬の準備

(一) hMSC 脂肪細胞分化キットの調製

- Chondrogenesis differentiation Supplementは4 °Cで解凍します。37 °Cで解凍しないでください。
- バイオセーフティキャビネット内で滅菌済みピペットを使用し、下記の成分を均一に混和して100mLの分化完全培地を調製します。

Adipogenic differentiation Basal Medium : 90 mL

Adipogenic differentiation Supplement : 10 mL

- 完全培地は4 °Cで保存し、2週間以内に使用可能です。

TIPS : 実際の使用量に応じて、Supplement を分注して凍結保存することができます。凍結・解凍は合計で2回までとします。

(二) オイルレッド使用液の調製

- オイルレッド飽和保存液：オイルレッド粉末 18 mg + イソプロパノール 50 mLを混和し、常温で保存します。
- オイルレッド使用液：保存液と生理食塩水を 6:4 の比率で希釈し、顆粒の析出がないか観察します。析出がある場合は、0.22 μm フィルターでろ過除去します。使用液は必要に応じて、調製後すぐに使用すること。

間葉系幹細胞の脂肪細胞分化

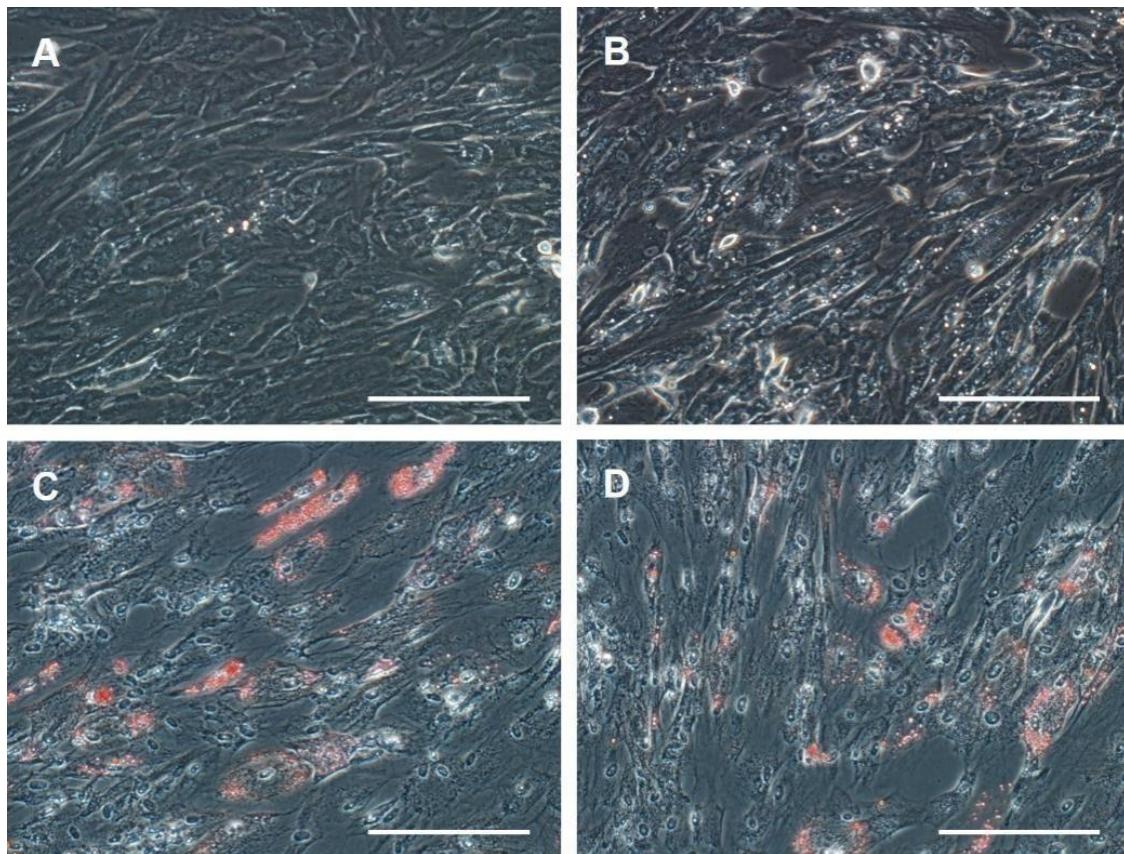
(一) 間葉系幹細胞の培養

- hMSCの培養と準備：詳細は「NcMission™ hMSC Medium V3.0 取扱説明書」を参照してください。
- NcMission™ hMSC Medium V3.0 を用いて間葉系幹細胞を培養し、間葉系幹細胞を 5000~10000 cells/cm² の密度で6ウェルプレートに播種し、水平方向に十字振りを3回実施後、37 °C・5% CO₂・飽和湿度のインキュベーターに入れ、再度水平方向に十字振りを3回行い、培養します。

(二) 間葉系幹細胞の脂肪細胞分化

- hMSCが約85%コンフルエンシーに達した時点で分化を開始します。
- 上清を除去し、実験群と対照群を設定します。実験群にhMSC脂肪細胞分化完全培地を添加し、対照群にNcMission™ hMSC Medium V3.0を添加します。
- 3-4日ごとに培地を交換し（各ウェルに2-3 mL/回）、21日目まで連続培養します。
- 21日目に上清液を吸引除去し、固定液（4%パラホルムアルデヒド）を添加し、30分間固定します。
- 分化群と対照群の上清を除去後、適量のオイルレッド使用液を添加し、室温・遮光条件下で20-60

分間インキュベートします。その後、染色液を除去し、生理食塩水またはDPBSで背景色がなくなるまで洗浄し、各ウェルに生理食塩水またはDPBSを添加し、顕微鏡下で観察・撮影します。



図A・B：hMSC脂肪細胞分化キットを用いた分化10日目と21日目の細胞形態

図C・D：hMSC脂肪細胞分化キットを用いた分化21日目のオイルレッド染色結果 スケールバー：200 μm